

一 般 行 政 報 告

平成24年 第4回定例会 (9月)

《 目 次 》

- 1 『最北端・食マルシェ』 『南中ソーラン全国交流祭 in 稚内』
の開催について 1
- 2 合宿・コンベンションの誘致状況について 3
- 3 ネベリスク市友好都市 40 年記念事業について 5
- 4 宝来団地 2 号棟の完成について 7
- 5 『人が行き交う環境都市わっかない』 実現に向けた取組について
. 9
- 6 岩手県の災害廃棄物の状況視察について 11
- 7 特別養護老人ホーム整備事業候補者の決定について
. 13
- 8 ロンドンパラリンピックでの藤田征樹選手・銅メダル獲得
について 15

平成 24 年・第 4 回稚内市議会定例会の開催にあたり、
8 項目につきまして一般行政報告をさせていただきます。

- ◎ 1 点目は、「『最北端・食^{しょく}マルシェ』『南中ソーラン全国交流祭 in 稚内』の開催について」であります。

完成したばかりの北防波堤ドーム公園を会場に、去る
8 月 25 日、26 日の 2 日間『最北端・食マルシェ』を、
また初日 25 日に『南中ソーラン全国交流祭 in 稚内』を、
同時に開催いたしました。

『最北端・食マルシェ』は、昨年、「最北端の地の碑
50 周年記念」として宗谷港てっぺん公園で開催したイベ
ントですが、この春、完了した駅周辺整備事業で、キタ
カラ、道の駅などがオープンしたことに合わせ、会場を
駅周辺に移し、メモリアル事業として開催したものです。

今年は、テーマを『食・にぎわい・歴史』とし、特に
「宗谷黒牛」、「宗谷のほたて」、「勇知いも」、「稚内牛乳」
など稚内ブランド認証品をはじめとする地元食材にこだ
わった飲食・物産販売を行い、その魅力を PR しました。

また、駅周辺の各施設では、懐かしい光景でつづる歴史写真展やスタンプラリーなども開催し、歴史をキーワードに、中心市街地に人の流れを創るよう努めました。

また、3年ぶりの開催となった『南中ソーラン全国交流祭 in 稚内』は、幼児から80代の方まで、幅広い年代の皆さんにご参加いただきました。36団体、1,800人の皆さんが懸命に踊る姿に、大きな感動をいただきました。

2日間のイベントの人出は、延べ2万9千人。初日は天候に恵まれ、また2つのイベントの相乗効果も大きかったことから、延べ2万5千人の来場者でにぎわいましたが、2日目は雨に見舞われたこともあり、延べ4千人にとどまりました。

両イベントは、それぞれ実行委員会を組織して開催いたしました。ご協力いただいた関係者の皆様に、この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。

◎ 2点目は、「合宿・コンベンションの誘致状況について」
であります。

本年は、特に8月以降、全道・全国規模の大会等が相次ぎ開催されておりますので、その概要を報告いたします。

8月以降、『日本青年会議所 北海道地区大会』約800人、『日本応用数理学会』約380人をはじめ、『稚内ライオンズクラブ認証50周年記念式典』、『境界地域研究ネットワーク JAPAN 稚内・サハリンセミナー』、など、市外から合わせて約2千人の皆さんに、ご参集いただいております。

さらに、本日から総合文化センターを会場に『全国風サミット』が開催されます。10月以降も『日本PTA北海道ブロック研究大会』700人、『北海道スポーツ推進委員研究協議会』400人などが予定されているところです。

また、スポーツ大会も実績・予定を合わせ、市外から約2千人の選手が集まります。

この夏の節電対策下の猛暑の中、本年は夏季に開催が集中しております。今後も本市の冷涼な気候と、首都圏

などからの交通アクセスの利便性などを強みとして、誘致展開に繋いでまいりたいと考えます。

特に学会については、昨年度も日本太陽光エネルギー学会などが本市で開催されており、これらの誘致経験を生かし、多数の会員を持つ「学会」の開催誘致にも取り組んでまいります。

一方、官民挙げて合宿を誘致しようと、「スポーツ合宿誘致推進協議会」を設立して、3年目を迎えました。合宿参加者は、現時点で510人、延べ宿泊者数2,717人になっており、最終的には年度末で34団体、約750人、延べ宿泊者数も昨年実績の7割増となる約3,900人を見込んでおります。

特に本年は、ホテルなど市内の宿泊施設を利用する合宿が増えております。街中でも、イベントへの参加や買物をする選手の姿が目立っており、合宿の経済波及効果も高まっているものと考えます。

今後におきましても、様々なイベント・コンベンション、また合宿の誘致に努め、交流人口の増加を図り、地域経済の活性化に努めてまいります。

◎ 3点目は、「ネベリスク市友好都市 40 年記念事業について」であります。

去る 9 月 4 日から、商工会議所 正副会頭や市議会 正副議長など総勢 21 人の皆さんと、友好都市提携 40 年の記念式典に出席するため、ネベリスク市を訪問してまいりました。

ネベリスク市では、パク市長をはじめ代表者の皆さんから心温まる歓迎を受け、ネベリスク市民や関係者 約 300 人が出席する中、式典が執り行われました。

私からは「両市の友好都市交流を、地域の未来を担う若い世代へ着実に引き継ぎたい」とご挨拶してまいりました。

式典の後、市内の学校で「日本映画祭」が行われ、生徒や教職員 100 人余りの皆さんに、日本の文化に触れていただきました。

この友好関係は、くしくも 40 年前の同じ 9 月 4 日、当時の濱森市長を団長とするサハリン友好訪問使節団一行が、稚内港から船でネベリスク港へと向かい、温かい歓迎の中、友好都市を締結したところから始まりました。

わずか 135 トンの船ではありましたが、稚内港から直接、サハリン州へ向かうという出来事は、戦後初のことであり、改めて先人の勇気と先見性に敬意を表するものであります。

以来 40 年、友好親善からはじまったサハリン州各都市との交流ですが、この間、本市とサハリンは定期航路で結ばれ、また本市の企業がサハリンで事業展開するなど、その関係は大きく様変わりしております。

これまで築いてきた互いの信頼関係を礎に、今後さらに、稚内・コルサコフ定期航路を活用した物流の促進を目指す上でも、サハリンとのパートナーシップを、変わらぬ友情で、なお一層強めてまいりたいと考えております。

◎ 4点目は、「宝来団地2号棟の完成について」であります。

“まちなか居住”の推進と、老朽した市営住宅の改善などを目的とする宝来団地の建替事業は、平成15年度から第1期工事に着手し、平成17年度に1号棟40戸の供用を開始しております。

2号棟40戸につきましては、平成22年度から第2期工事として建設を進めてきたもので、本年7月25日に完成いたしました。

老朽化が進む富士見、恵比須、潮見ヶ丘の各市営住宅から住み替えていただく方のほか、一般公募でも入居者を募り、8月1日から入居を開始しております。

10階建ての2号棟は、環境に配慮した“次世代省エネルギー基準”に適合した公営住宅で、廊下幅やトイレの広さに配慮したユニバーサルデザインを取り入れております。

2号棟の完成により、「まちなか居住推進計画」で予定していた、市営住宅2棟80戸、道営住宅1棟40戸という一連の「宝来団地整備事業」が全て終了いたしました。

また、住宅管理上の課題でありました「使用期間を過ぎた住宅」、「水洗化されていない住宅」は、240戸あったうち、222戸が改善され、「浴室がない住宅」も全て解消されました。

◎ 5点目は、「『人が行き交う環境都市わっかない』実現に向けた取組について」であります。

福島原発事故以来、本市の再生可能エネルギーの取組が注目を集め、取材や視察が相次いでおります。そのような中、原発停止に起因する電力供給不足が懸念され、この夏は、市民の皆様にも節電をお願いしたところであります。

本市も、ほくでんの計画停電期間を拡大して6月1日からの4か月と期間を設定し、率先して庁舎の節電に取り組んでまいりました。1カ月を残した8月末までの実績では、目標としている7%を大きく上回る11%の削減を達成しております。節電は、省エネを推進する上で柱となる取組の一つであります。今回の節電対策は、我々に大きな意識変革をもたらしました。

一方、本年は企業や団体の皆様にも、エコを意識したさまざまな取組を行っていただいております。

稚内青年会議所の皆さんには、電気自動車での日本列島縦断に挑む「稚内情熱キャラバン隊」で、本市の再生エネルギーへの取組や観光の魅力などをPRしていただ

きました。また、稚内ライオンズクラブからは、先月、エコ観光の創出につなげることを期待して、「道の駅わっかない」に電気自動車の急速充電器を寄贈していただいたところ です。

さらに本日から、『再生可能エネルギー推進 稚内大会～第16回全国風サミット』を開催いたします。

我が国のエネルギー政策のあり方が議論される中、エネルギー事情に詳しい専門家が、再生可能エネルギーで9割を賄うまち、ここ稚内に集います。

全国から集まった関係者の皆様とともに、再生可能エネルギーの普及や、再生可能エネルギーを活用した近未来社会の実現に向けて、本市から力強くメッセージを発信したいと思います。

このたびの電力不足に対する危機意識、また皆様の積極的に環境に貢献しようとする気運を無駄にすることなく、省エネ意識だけでなく、環境問題に対する意識をさらに高め、市民や事業者の皆さんと一緒に、「環境都市宣言のまち」にふさわしいまちづくりを一層進めてまいります。

◎ 6点目は、「岩手県の災害廃棄物の状況視察について」
であります。

東日本大震災の災害廃棄物の受入につきましては、市民の皆さんの安心・安全が確保されることを前提に、協力したいという姿勢で、これまで情報の収集等に努めてまいりました。

そうした中、北海道の呼びかけで岩手県内の災害廃棄物処理状況の視察が行われることとなり、今後の判断材料にするため、視察に参加してまいりましたので、その概要を報告いたします。

7月27日から行われたこの視察には、本市からは私と担当課長、環境省北海道地方環境事務所、北海道、浦河町から合わせて9人が参加いたしました。岩手県内の被災地3市2町で、主に不燃物の選別状況や放射線量などについて、視察と確認を行ってまいりました。

市街地のがれきは既に撤去されているものの、がれきの集積や粗選別あらせんべつを行っている場所には、未だ大量の震災廃棄物が山積みとなっており、今回の被害の大きさを改めて実感させられる状況でした。

しかし、我々が視察した「二次仮置場」では、想像以上に細かな選別が行われておりました。有害物質の混入の可能性も無く、また心配された放射線量についても、人体に影響が無いレベルであることが確認できました。

一方、環境省は8月7日、新たな「災害廃棄物の処理行程表」を公表いたしました。この中で、可燃物や木くずなどについては、処理や活用におおむね目途が立ったものの、岩手県内の漁具・漁網と、宮城県の不燃混合物については見通しが立っていないことから、それらの広域処理について新たな受入先の調整を行うとしております。

これを受けた北海道では「岩手県の漁具・漁網の受入について協力要請があったので、受入を検討いただける市町村と協議を進める」としております。

本市では、現在、本市処分場での漁具・漁網の受入について、慎重に検討を進めているところです。

◎ 7点目は、「特別養護老人ホーム整備事業候補者の決定について」であります。

特別養護老人ホームにつきましては、入所待機者の解消を図るため整備の必要性を強く感じ、私自身「10の約束」の一つとして、増床を掲げてきたところであります。

このたび、その整備事業候補者が決定いたしましたので、概要を報告いたします。

本年3月に策定作業を終えた「第5期稚内市介護保険事業計画」の中で、介護保険運営協議会に諮りながら、特別養護老人ホーム40床をはじめ、グループホームの定員増など、本格化する超高齢社会に備え、必要な介護基盤の整備を予定したところであります。

このたび、整備を希望する事業者の公募を行ったところ、1法人から応募があり、稚内市介護保険運営協議会を開催し、整備計画書の審査とヒアリングを実施いたしました。

その結果、満場一致で稚内市社会福祉事業団が選定され、これを受け、7月末に市として特別養護老人ホームの整備事業候補者に決定いたしました。

特別養護老人ホームの指定権限は北海道にあり、整備事業候補者は、決定後に早速、整備計画と助成申請書を北海道に提出しております。

本市といたしましても整備要望が採択されるよう、事業の決定を行う北海道に対して、意見書を提出したところであります。

今後、北海道の「社会福祉施設整備選定に関する有識者会議」において、全道から提出された整備計画の内容、各施設の適否・優先度について審議され、その採否は今年度中に決定される予定です。

今回の整備計画が採択されれば、特別養護老人ホームの増床は、来年7月に着工され、平成26年3月に完成する運びとなっております。

- ◎ 最後は「ロンドンパラリンピックでの藤田征樹選手・銅メダル獲得について」であります。

まず、本件につきましては、一般行政報告の機会をお借りして、市民の皆さんと喜びを分かち合いたいということで、報告させていただく旨、ご了承いただきたくお願い申し上げます。

去る8月29日から、ロンドンで開催されておりました「2012ロンドンパラリンピック」に、本市出身の藤田征樹選手が自転車競技の日本代表として4種目に出場いたしました。

藤田選手は、前回の北京大会で二つの銀メダルに輝いたトラック種目ではメダルを逃したものの、9月5日に行われた16キロメートル・ロードタイムトライアルの
シースリー
C3クラスにおいて、同じ種目で二大会連続銅メダルを獲得するという輝かしい成績を挙げました。

市民の皆さんからは、“今度こそ金メダルを”との、大きな期待と声援が寄せられる中、トラック種目では、国際ルールの変更もあり苦戦を強いられましたが、その

逆境をバネに、ご本人の努力と精神力で見事に期待に応えた藤田選手に、心から敬意を表すところであります。

このたびのご活躍は、ご家族や市民の皆さん、そして職場で藤田選手を支えてきた関係者の方々に大きな感動を与えたと同時に、障がいのある方々にも勇気と希望をもたらす快挙であると思っております。

今後、藤田選手が帰省される際には、市民の皆さんと一緒に、喜びを分かち合える機会を設けたいと考えております。

以上、8項目についてご報告申し上げ、私の一般行政報告とさせていただきます。有難うございます。